

伏 幼 だ よ り

令和6年5月

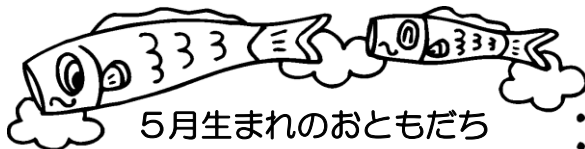
富田林市立

伏山台幼稚園

幼稚園を囲む森から小鳥のさえずりが聞こえ、子どもたちの元気な声が園庭にひびきわたっています。子どもたちは少しずつ新しい環境に慣れ、笑顔が増え、天気の良い日は、園庭にでて遊具や砂場で遊んだり、虫やチョウを追いかけて遊びを楽しんでいます。

先日、幼稚園から徒歩10分くらいの農道の行き止まりの場所まで春を探しに行ってきました。歩いている途中で「ホーホケキョ」とウグイスのなく声が聞こえ、「あっ、聞こえる！」と子どもたちは驚きながら耳をすまして聞き入る姿もありました。電車の見えるその場所に到着すると、電車がくると手を振ったり、水が流れている溝に何かいるかなと棒でさぐってみたり子どもたちは興味のあることを楽しんでいました。その場所にはカラスノエンドウ（ヤハズエンドウともいうそうです）がたくさん生えていて、その茎にはアブラムシがびっしりとついていました。テントウムシをその草むらで発見！子どもたちは夢中でテントウムシを探しつかまえています。「先生、テントウムシからくさい汁がでてきて手についた～」と知らせに来てくれた子がいて、「なんでこんな汁がでてきたのかなあ」と問かけると少し考えて「触られたのが嫌なん違うかな」と返事がありました。実際にテントウムシを触ることで生態を知るきっかけになりました。そのうち、子どもたちは、カラスノエンドウに黒い虫がたくさんついているのに気がついて、もってきたミニ図鑑で調べたり、虫のことをよく知っている子が「これテントウムシの幼虫やで、アブラムシを食べる」と教えてくれたりとこの黒い虫にも興味が出てきました。テントウムシと一緒に幼稚園で飼育することになり、さて、黒い虫は本当にテントウムシになるのか・・・子どもたちは楽しみにしています。

この『春探し』では、自然の不思議さやおもしろさ、生き物が身近にいて生きていることを感じていました。友達の刺激を受けより虫にも興味をもち意欲的に関わる姿もあり、実体験を通していろいろなことを知り感じていました。幼稚園の外には自然が多くあり、四季折々の自然に触れ、感じたり考えたり幼児期に必要な多くの体験をしていきます。伏山台幼稚園でしかできない様々な自然、もの、こととの出会いを通して好奇心や探求心をもって考え、自然への愛情、生命の不思議さや尊さに気づき、命あるものを大切にする気持ちが育ってほしいと思っています。 園長 石田 尚美



5月生まれのおともだち

お誕生日、おめでとう

あじさいぐみに

一人います

たんぽぽぐみに

一人います



～育てたいこと～

<4歳児>

- ・園生活のリズムに慣れ、安定して過ごす。
- ・教師や友達と一緒に好きな遊びを見つけて遊ぶ。

<5歳児>

- ・自分なりの目的をもって試したり、友達と関わったりして遊ぶ。
- ・身近な自然に親しみ、生き物の世話をする。